



社会学類 への 招待



**A Guide to
College of Social Sciences, University of Tsukuba**

ようこそ社会学類へ

社会学類は社会学、法学、政治学、経済学から構成されます。これらは社会科学の専門分野であり、そこで採用される視点やアプローチは異なりますが、社会の問題点を発見・分析し、解決策を提示することにより、よりよい社会を築こうとする点では共通です。社会学類では、各分野の基礎的素養を身につけた上で、専門分野を履修することにより、多面的なアプローチを可能にし、よりよい解決策の立案能力が獲得できます。

社会は日々変化しており、そこに生起する様々な問題も日々変化しています。そこでは、解決策の提示といっても暫定的であり、絶えず新たな解決策を提示する必要があります。学生時代に、社会に生起する様々な問題に関心を持ち、大いに議論をして下さい。そしてお互いに刺激し合う中で、新しい知識や考え方を身につけて下さい。

そして、社会問題を適格に把握し、解決する能力を身に付けると共に、何よりもよりよい社会を築こうとする気概をもって、社会にはばたいてもらいたいと願っています。



法学主専攻教授
社会学類長
根本 信義

目次

筑波大学・社会学類について

カリキュラム-----1

各主専攻の紹介 ●社会学主専攻 -----2

●法学主専攻 -----4

●政治学主専攻 -----6

●経済学主専攻 -----8

4主専攻から -----10

卒業生の声 -----12

卒業生の進路 -----14

「社学生」の生活 -----16

入学案内 -----17



筑波大学・社会学類について

社会学類は、社会科学を総合的に教育することを目的とし、同時に専門の内容を深めるために3～4年次は社会学・法学・政治学・経済学の4主専攻に分かれます。他の大学に当てはめて言えば、法学部（法律学科・政治学科）、経済学部、社会学部（ないし文学部社会学科）にそれぞれ所属しながら、他学部（他主専攻）の勉強をすることも可能であり、かつ必要というわけです。

人間はともすると、「深ければ、狭く」「広ければ、浅く」なりがちですから、ひとつの主専攻を深く、かつ他の主専攻を広く勉強することは、決して容易なことではありません。しかし、現代の複雑な社会問題はそのような勉強を要求していますし、またそれに応える勉強は楽しいものです。

たとえば、主専攻分野の勉強を深めるために、2～4年次においては、少人数形式の入門演習や演習（ゼミナール）が設けられ、活発な討論と深い研究の「場」となっています。また、指定の「教職科目」を修得することにより、教員の資格が得られます。社会学類で取得できる主な免許状（科目）は中学校1種（社会）、高等学校1種（公民）です。

このほか、学生が生きた学問を体感できるように工場見学や施設見学を行ったり、全国的にも珍しい裁判員制度に対応した模擬法廷教室で裁判実務の講義を行ったりしています。

社会学類と関係する大学院

社会科学と関係する大学院が筑波大学には多数設けられており、大学院に進学する学生も増えています。社会学類と最も密接な関わりを持つものとして人文社会科学研究科があり、その他に教育研究科、生命環境科学研究科、人間総合科学研究科、システム情報工学研究科、ビジネス科学研究科などがあります。

法学分野では、東京大塚に、社会人を対象とした法科大学院（ロースクール）が設置されています。

社会学類を卒業後、上記の大学院を経て、あるいは他大学の大学院（ロースクールを含む）を経て、大学やその他の研究機関、行政機関、法曹界、シンクタンク、マスメディアなどで専門知識を生かし研究を続けることが可能です。そうした多くの先輩が活躍しています。

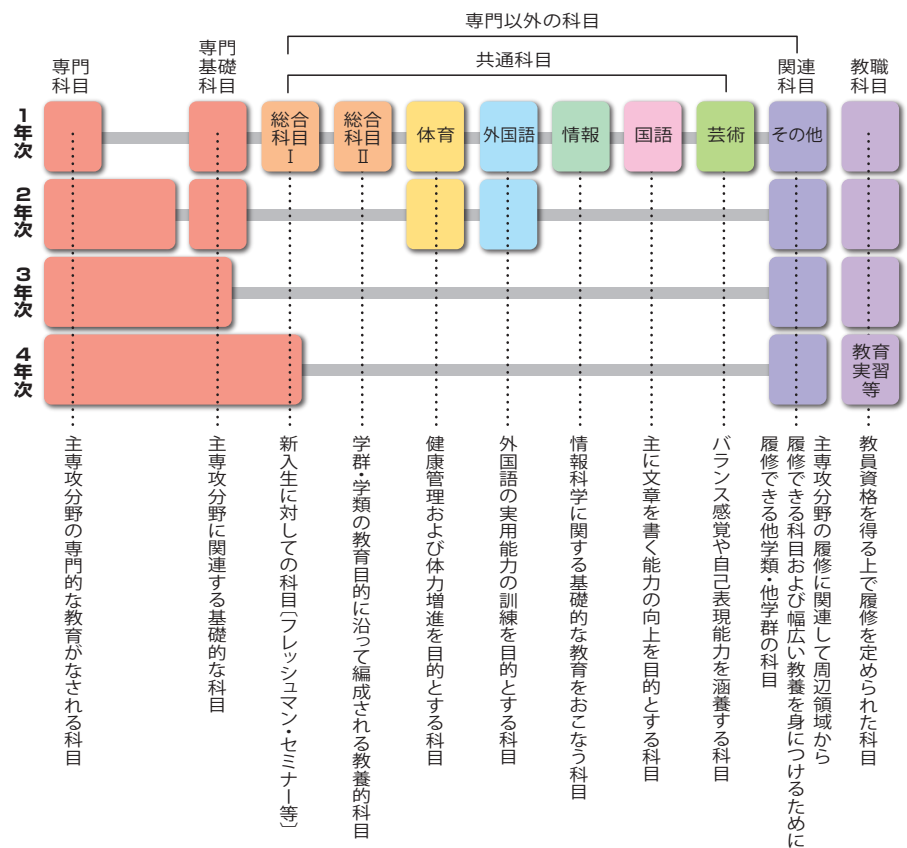
Curriculum

カリキュラム

筑波大学の授業は、従来の大学に多く見られるような教養課程と専門課程という段階的な区分を設けず、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に総合的に提供しています。

したがって、学生は、1年次から専門分野の学問に触れることができ、また必要と興味とに応じて他の幅広い学問分野からも知識を吸収することができます。4年間という期間を計画的に、また自らの関心にしたがって組み立てていくことによって、高校時代には味わうことのできなかった学問の奥深さと面白さを、きっと知ることができるでしょう。

授業は、「専門科目」、「専門基礎科目」、「共通科目」、「関連科目」に大きく分けられます。このうち、「専門科目」では各主専攻の専門分野に関わる知識を、「専門基礎科目」では専門分野に関連する社会科学の基礎的な知識を、「共通科目」では体育、外国語、情報、国語、芸術などを、「関連科目」では専門以外の幅広い教養を学びます。



社会学主専攻

社会学への招待

現代社会の様々な出来事は、思いがけないところで私たちの社会生活に変化をもたらしています。変わりゆく企業組織と家族関係の揺らぎ、新しい宗教現象と若者文化、外国人労働者の増加と地域社会、多様化するライフスタイルとメディア、例を挙げればきりがありません。経済、政治、文化、技術など一見ばらばらに見える社会の各領域も、実は相互に深く関係し合っており、そうした複雑な仕組みに眼を向けることなしには、現代社会を理解することはできません。

社会学は、こうした社会の各領域の成り立ちやそこに発生する問題を、特に私たちの日常生活のレベルから解明すると共に、さらに異なる領域の間に広がる見えない関係の連鎖を、人間や組織・集団の観点から自由に明らかにすることを、課題としています。本学の社会学主専攻では、主として社会問題論（国際移動・犯罪・逸脱行動・労働）、文化論（スポーツ・都市・メディア・知識・歴史）、医療・福祉論（老いと病い・社会保障・介護）を専門とするスタッフが、様々な学生の関心に対応した社会学の「フィールド」を整備しています。（下記の「卒論タイトル抜粋」を見てみてください）皆さんも、私たちが用意したこのフィールドで自由に駆けまわってみませんか？

教育方針と特色

社会学主専攻の科目は、社会学の基礎的な概念や理論を学ぶ社会理論、データを収集し分析するための方法を学ぶ社会調査・社会データ分析、そして家族や地域、産業、福祉、メディアなど個別分野についての社会学に大きく分けることができます。本主専攻では、単に社会理論を教育するだけでなく、現代社会のさまざまな問題に対して自ら頭と足で取り組む能力を養成するため、社会学演習（ゼミナール）と社会調査実習を開設しています。また国際的な視野から日本社会を学ぶことも重視しています。学生は、こうした学習の成果をまとめる機会として、卒業論文に取り組むことになっています。

将来の方向と進路

マスコミ・製造業・金融業・調査研究機関・サービス業などの民間企業や公務員など、きわめて多様な分野へと卒業生は就職しています。また、希望を生かして教員になるケースもあります。さらに、人文社会科学研究所（国際公共政策専攻社会学分野）をはじめとする大学院に進学することにより、より専門的な研究を続ける道も開かれています。



専門科目講義



東京都庁・都議会でヒアリング



秋葉原見学（社会学演習）

卒業論文タイトル抜粋（平成26年度）

- 現代社会の中での差別とは ●指導としての体罰の社会学 ●ジャパニーズ・ヒップホップの歴史社会学
- つながり合うファッションの社会学 ●多様化する農産物の地域ブランディング ●少年野球の地域教育力
- 都市農業における日本型グリーン・ツーリズムの可能性 ●個人化する社会におけるコミュニティ ●「身だしなみ男子」の誕生
- インターネット時代の口コミ ●リストカットブログにおける若者の「自己語り」 ●NIPPONの銭湯の観光社会学的分析
- 山谷における社会運動の歴史社会学 ●朝鮮学校における民族教育と民族的アイデンティティ
- ネットの中の「見知らぬ誰か」と共に死ぬとは ●「付きまとい」というカテゴリーの社会学的位置考察
- 福祉系学部における教育から職業への移行 ●性産業の言説空間 ●若い母親のライフスタイル



いがらし やすまさ
五十嵐 泰正

「都市社会学」「地域社会学」「社会学演習」「社会調査実習」▶【都市社会学／国際人口移動論】▶「大学の中

に引きこもっている社会学者に、社会の何がわかるんだ」でもっとも。否定はしません。「社会は社会に出てから肌で覚えるから、社会学なんて知らないよ!」それはどうかな?「社会」には、たくさんの<社会>があります。油の匂いの漂う工場にも、深夜のファミレスにも。図書館でちょっと時代を遡れば想像もつかない<社会>があるし、海を渡ればちっぽけな予測を軽く裏切る<社会>が待っています。そうそう、大学もひとつの<社会>です。「社会人」になってから、安易に「社会」がわかった気になって失敗しないために、さまざまな<社会>にまみれながら、いくつもの<社会>の成り立ちを自分の頭で考えておく。それが社会学主専攻で過ごす大学生活です。



うらの えじそん
ウラノ・エジソン

G30 授業
Social Issues in
Contemporary
Japan, Comparative
Society, Public

Policy, Transnational Social Policy など【国際社会学／国際社会政策】▶移住労働者の増加や企業の国際展開などにより、国家を単位とした公共政策が社会保障、雇用、所得再分配などのニーズに応えられなくなっています。こうした「矛盾」を念頭におきながら、社会政策のグローバルな枠組みについて一緒に考えましょう。



おくやま としお
奥山 敏雄

「組織社会学」「社会学基礎論」「社会学演習」▶【組織社会学／社会システム論／医療社会学】▶教科書に

書いてあることがすべて正しいと思わない態度を身につけることが大切です。社会についてはいろいろな見方や考え方が成り立ちます。様々な社会認識に対して、自分なりの距離を取れるようなタフさが必要なのであって、唯一の正しい見方を教えてくれと求めることは、安住できる宗教を求めるようなものです。大学に入ったら受験の思考回路を早く捨ててください。



かつらやま やすお
葛山 泰央

「知識社会学」「社会学演習」▶【言説分析／知識社会学／フランス政治哲学】▶社会学という学問的な営

みの特徴付けているのは、さまざまな社会(的事象)をその内部から観察することの二重性、つまりは「社会への視線」と「社会からの視線」とが互いに織り成す、ある種の往復運動にほかなりません。その意味で、社会学とは、近代社会の自己観察の営みであるともいえます。私たちの生きる社会への、私たちの生きる社会から向けられる、こうした視線のダイナミズムを、あなたもぜひ一度体験してみませんか。



たるかわ のりこ
樽川 典子

「家族社会学」「ジェンダー社会論」「ジェンダーと刑法」「社会調査実習」▶【家族社会学／福祉社会学】▶

知識を習得する勉強から、学を問う学問へ。筑波大学社会学類で学ぶ楽しさの一つは、ここにあります。メディアがとりあげる出来事だけが社会でしょうか?人びとの生活のさまざまな事象をつうじて見えてくるものにも注目していきましょう。社会とは大学とは?大学教授は何を考えているのか?わかりやすく知りたい方は、下記の文献を通読してみてください。

▷山下和美『天才柳沢教授の生活』全21巻、小学館



どい たかよし
土井 隆義

「現代社会論」「犯罪社会学」「社会学演習」▶【犯罪社会学／法社会学／逸脱行動論／社会問題論】▶

社会生活における様々な病理現象を素材に、社会学的なものの見方について考える授業を行なっています。社会学というパースペクティブから様々な病理現象をながめると、社会と私たちとの関りについて、今まで気づけなかった意外な側面が見えてきます。重大な社会問題と思われるものが、じつは別の側面で現代社会のシステムを支えていたり、あるいは逆に、望ましいと思われていた理念が、その裏側では病理現象を招いていたりすることが分かってきます。授業をとおして、社会病理をめぐって従来の常識を突き崩す面白さを味わうとともに、社会の中で私たちが生きていく意味についてもぜひ考えてください。



のがみ げん
野上 元

「歴史社会学」「社会学演習」▶【歴史社会学／メディアと情報化の社会学】▶なぜ社会学をやろうと高校

生の頃に考えたのかを思い出してみると、人々の営みを高見から説明することに魅力を感じていたのかもしれない。意外な視点で世の中や人間関係をばつさり斬り、物事の捉え方を変化させて、何気なく見えていた風景を変える…。社会学を学べば、まるで自分が世事から超越し、何か偉い人間になれるのではないかと思ったわけである。ただ、今ならそうは考えない。社会は高見から説明できるようなものではないし、つくづくそれは無力な高校生が頭のなかだけで一発逆転を狙っていたようなものだったと思う。



ファン スンヒー
黄 順姫

「社会学演習」「調査実習」「スポーツ文化論」「教育社会学」▶【教育社会学／文化社会学／スポーツ社会学】▶

▶社会学の演習では社会学理論と、フィールドでの調査方法を学び、関心のあるテーマで論文を作成します。たとえば「記憶の社会学」では、記憶の空間、時間、身体論を検討し、同窓会、スポーツ、整形・エステなどの分野からテーマで設定し、ゼミ論を完成します。調査実習では、直接フィールドに出て、たとえば、中等学校の学校現場、同窓会、または新宿大久保コリアタウン、秋葉原などで調査し、報告書を完成します。社会学研究の面白さを堪能してください。



もり なおと
森 直人

「労働社会学」「社会学演習」▶【労働社会学／社会階層論／戦後日本社会学】▶「労働

問題」をめぐる2つの問題を考察しています。1つは「労働」のあり方を通じて社会の構造的な格差や不平等がもたらされるメカニズム。もう1つは、人が「労働」に必要な知識や技能を身につけ、さらに「労働」そのものによって成長していくプロセス。私たちは社会のあるべき姿にむけて「格差是正」や「制度改革」を性急に求めがちですが、そこで前提として自明視されている《常識》はしばしば実態とかけ離れた歪んだ像を描き、善意にもづく問題解決に向けた介入が「意図せざる結果」をもたらすことも多くあります。社会学はこうした矛盾をはらんだ複雑なメカニズムを解明していくためのツールなのです。

*上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

法学主専攻

法学への招待

現代社会の複雑多岐な社会生活は、様々な法律や制度によって運営されており、人としてそこに生きる以上、好むと好まざるを問わず法にかかわらざるを得ません。新聞を開いてみれば、個人のプライバシーとマスコミの取材の自由の問題、少年犯罪、児童虐待の増加等、「法的」な問題を毎日のように目にします。また、国際化の進展にともなって、外国企業の合併や吸収、国際貢献など、外国とのあいだで法的な解決を迫られる場面も増えていきます。法律というと、一見、日進月歩の科学技術とは異なり、固い、旧態依然というイメージがあるかも知れませんが、決してそのようなことはありません。証券取引の規制、ソフトウェアやバイオテクノロジーの保護や規制、ネット社会特有の諸問題への対応等、新たな法現象が生じてきたこともあって、情報化・国際化の今日、法学には、時代の変化に柔軟に対応することが求められているのです。

教育方針と特色

法学主専攻では、ひろく法にかかわる基礎的な理論・システムの把握を教育の中心においており、そうした教育を通じて、幅広い法的なものの見方、考え方を養うことを主眼としています。基本的な実定法を通じて、現実の法体系を学ぶことで、長い歴史のなかで培われた人間の叡知の豊かさを理解し、その社会的役割を適正に評価することが、なによりもまず求められます。

法学主専攻のカリキュラムは、様々な実定法から、政治学・経済学・社会学・人文関係系統にいたるまで、幅広いものを含んでいますが、そうした科目の学習を通じて得られる、社会生活全体を広い視野で考察する適切妥当な観点と判断力が、まさに法的なものの見方、考え方の現れなのです。様々な法分野の講義から、少人数形式のゼミナールにいたるまで、法的議論の「場」は多々用意されています。

将来の方向と進路

卒業生の就職先は企業・団体など多岐にわたり、国内外で広く活躍しています（うち約2割が公務員）。また、法科大学院へ進学し法曹を目指す卒業生もいます。



演習の風景



専門科目の授業風景



模擬法廷を使った授業風景

演習テーマ抜粋（平成26年度）

- 民事訴訟法に関する重要判例の検討
- 中学生を対象とした法教育の教材作成
- 司法試験問題の検討
- 日独仏英における動産物権変動法理の比較研究
- 国際結婚と離婚
- 高齢者の扶養・介護はどこまで義務か？
- 株式会社の企業統治に関わる機関
- サーベラスによる西武HD株TOBの研究
- 企業統治…社外取締役を巡る動き
- アメリカ信託法の研究
- 弁護士宅への立ち入り許可交渉
- 国家公務員、法科大学院試験対策
- インターネットと法
- ジャーナリズムと法
- 刑法各論の基本問題
- 刑事手続の重要問題
- 民法財産法の判例研究



いしかわ ともこ
石川 知子

「国際経済法」▶【外国投資法】▶大学に入学し、初めて自分でカリキュラムを選択し、何を学ぶかを定める自由は得難い喜びだと思います。今は学ぶ意欲に満ち溢れておられることでしょう。その意欲を減退させないために大切なことは、受け身の姿勢を取らないということです。講義において、また、ゼミ等での議論において、批判的に考える姿勢を崩さないことを強く勧めます。皆さんの実り多い大学生活を心から応援しています。



つじ ゆういちろう
辻 雄一郎

憲法Ⅰ、憲法Ⅱ、憲法Ⅲ、行政法▶【情報法／環境法】▶大学生活が希望に満ちた生活とはいえません。権

威となる通説や正解が存在せず、学説の対立する混沌の世界に投げ込まれ、現実と理想との間の乖離にとまどい、将来の設計図を自分の責任で描かなければならない「苦痛」の時期です。人生で成功する客観的な正解が存在しない世界を前に苦悩し、血肉の通った他者の生き方に触れ、自分の生き方を試行錯誤し、「実験」する。大学を卒業して初めて大学生活の「楽しさ」に気づくのかもしれません。

ほしの ゆたか
星野 豊

「契約」「債権総論」「信託法」▶【民法／信託法／金融法】▶少なくとも学部生である間は、主専攻とする分野や将来の希望職種にとらわれることなく、幅広く学び、自由に考えることを心がけてください。興味を持つ対象が社会科学の範囲を超えて、他の領域に及んでいくことも、全く差し支えないと思います。逆に言えば、「自分はこの分野を専門としている」ということが、「他の分野のことは分からないし関心もない」ということにならないように、十分注意してください。



もりた ちほこ
守田 智保子

「刑事訴訟法」「刑事政策」「法律外書購読Ⅰ」▶【刑事訴訟法／証拠法】▶大学では、これまでとは異なるこ

とばかりで、戸惑うことも多いかもしれません。最初は慣れるのに精一杯でも、いつか自分のペースを掴むことができます。そうしたら、少し立ち止まってみてください。きっとその頃には自分の夢がぼんやりと見つかると思います。他の誰でもない自分でそれを見つけて、少しずつでも寄り道をしながらでも進んでいけば、卒業の頃には、きっとただの「夢」ではなくなるはずです。



おかうえ まさみ
岡上 雅美

「刑法Ⅱ」「刑法Ⅲ」「ジェンダーと刑法」「ドイツ社会文化論」▶【刑事責任論／刑罰論／量刑／ドイツ刑法】

▶大学とは、知識を増やすだけが目標ではありません。大学での4年間（以上？）をどのように過ごすかで、良くも悪くもその人の一生が決まります。「本当に好きなこと」を大学生活の間で見つけてください。それぞれの「本当に好きなこと」を達成するにも努力と正しい戦略が必要なはずですが、できるだけ広い視野をもち、いろいろな物の見方ができるということが大切でしょう。いろいろなことを体験し、いろいろな本を読み、そして、是非是非、学生の間に、今まで行なったことのない外国を訪れてみてください。



ねもと のぶよし
根本 信義

「裁判実務Ⅰ」「裁判実務Ⅱ」「裁判実務演習」▶【裁判実務／法教育】▶4年間はあっという間に過ぎてしま

います。知的好奇心を発揮して、さまざまなことにトライしてみてください。夢中になれる何かが見つければ、あなたにとって大きな財産になります。また、興味あることをみつけるためにも読書は大事です。手始めに新書を読むことを薦めます。法学関連としては、橋爪大三郎「人間にとって法とは何か」（PHP新書）、木村草太「キヨミズ准教授の法学入門」（星海社新書）、東谷暁「不毛な憲法論議」（朝日新書）、瀬木比呂志「絶望の裁判所」（講談社現代新書）などはいかがでしょう。興味をもったら、さらに専門書へとステップアップしてください。



みやさか わたる
宮坂 渉

「民法総則」「物権」「法制史」▶【民法／ローマ法／西洋法制史】▶法律や裁判は、自分とは関係ない世

界の話のように聞こえるかもしれません。でも何故？今までは君が困ったら、家族や友人や学校の先生が助けてくれたでしょう。けれども世の中それでは解決できない問題が沢山あります。誰も助けてくれない。そんな君が最後に頼ることができるもの、それが法律であり裁判です。君がそこまで追い込まれていないなら、なぜ法律や裁判が必要か直ぐには分からないかも。でも人間には共感する力が備わっています。自分がそうになったらと想像して、実際にそうになった他人の気持ちを理解できるはず。そうした共感力を社会学類での4年間で培ってください。



きざき しゅんすけ
木崎 峻輔

「刑法Ⅰ」「刑法演習」▶【正当防衛論】▶大学では、学習の対象を自ら選択して、自由に、深く学ぶことができる

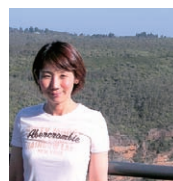
反面、少し興味はあるけれど難しそうだなどと尻込みしてしまうこともあるかもしれません。例えば、法律学の中でも刑法は、難解な専門用語が飛び交うことから敬遠する人もいでしょう。しかし、ほんの少しでも興味を持った対象については、恐れず、積極的に関わりを持って下さい。それがあなたの人生にとって大きな意義を持つものになることも、十分にありえます。



はぎわら かつや
萩原 克也

「商法Ⅰ（総則・商行為）」「会社法」「有価証券法基礎」「記録債権法」「金融商品取引法」▶【運送法（海上・

航空）／有価証券法】▶商法の分野は複雑に見える部分もありますが、基本は「合理性」を追求した「実用的な制度と解釈」です。マニュアル思考とは違う法的なものの見方・考え方、論理性を習得し、社会にでたら起業家になったり、専門知識を生かして主体的に生きていこうと考えている方を歓迎します。まずは堅苦しく考えずに飛び込んでみてください。



むらかみ まさこ
村上 正子

「民事訴訟法Ⅰ・Ⅱ」「国際民事訴訟法」▶【国際民事訴訟法／外国判決の承認・執行／弁護士倫理／証拠

法】▶大学での4年間は、今までの受身の学習を通して得た知識を活かしつつ、自分から積極的にどんどん学ぶことにより、将来の人生における選択肢を増やす大事な時間です。将来の夢が決まっている人もそうでない人も、できるだけ多くのことに挑戦してください。人生において無駄なこと、無駄な知識など一つもない、マイナスをプラスに変えようという前向きな姿勢を持ち、卒業するときに、「いや～、4年間楽しかった!」といえる、そんな大学生活を送って欲しいと思います。私から皆さんへのメッセージは、「意志あるところに道は開ける」です。

政治学主専攻

政治学への招待

今日、私たちは政治の圧倒的な影響のもとに生活しています。実際、国際間でおこった一つの地域的なテロが全世界の市民をその渦中に巻き込み、政府が決定した一つの経済政策の失敗が、国民一人ひとりの生活のすみずみにまで浸透してきています。私たちが政治に関心をもたなくとも、政治が私たちをとらえてはなさないのです。

政治学はこのような政治の世界を理論的、科学的、歴史的に分析し、理解し、同時に政治のあるべき姿を科学的、思想的に考察しようとする学問です。人間・集団・社会・国家に発生するさまざまな利害の対立と解決の様相を研究するこの学問にとって、「人間」に関する多様な認識と深い洞察力は不可欠であり、そのためには、幅広い教養と専門的な知識を吸収しようとする旺盛な知的好奇心が求められます。

教育方針と特色

政治学主専攻では、政治に関する基本的な概念、理論、歴史などを学ぶ基礎的な講義、入門演習を通して、政治学的なものの見方を身につけます。そして、専門科目、専門演習に入って政治理論、政治思想、政治外交史、国際政治等、それぞれ自分の関心領域を決め、研究を深めます。

とくに演習は、少人数、自主的運営を原則とし、テキストの輪読や興味ある研究テーマについての報告、討議を行い、その成果をゼミ論文としてまとめることになっています。

演習はまた、学生の企画、討論への参加を通して自立心を育てる場であるとともに、ゼミ活動を通じて、学生同士はもとより、教員との相互親睦を深め、社会人としてのあり方を具体的に実践する機会を提供してくれるでしょう。

将来の方向と進路

就職先は、マスコミ、金融、製造、不動産、サービス業、さらに国家、地方の公務員等、多岐にわたっています。最近では、企業の総合研究所や情報関連企業に就職する卒業生も出てきています。また、大学での研究を深めるために大学院に進学する者もいます。



専門科目の演習および講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成26年度）

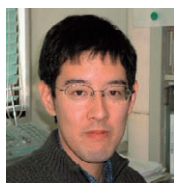
- 日本における外国人介護士の受入れをめぐる政策と現実
- ドイツにおける移民の社会統合政策の変化
- 新しい権力：ソーシャル・メディアと政治
- 自衛隊の国際平和協力活動に関する研究
- 福祉国家レジームにおける障害者福祉
- 日本の安全保障戦略における在沖米軍基地の必要性の有無
- 特別養護老人ホームにおける待機者の定義要因
- アメリカの社会政策におけるキリスト教右派勢力の影響力
- 自民党政権にみる教育政策
- 選挙制度改革の目的は達成し得るのか
- 核兵器管理体制の変化と北朝鮮の核開発
- 山一證券の自主廃業と大蔵省の金融行政
- 地方政府における政策選択の決定要因
- 三鷹市の住民自治「先進都市」への発展要因
- 鉄道政策と有権者の投票行動
- ネット選挙
- 移民と排斥
- 外国人の子どもたちと進路問題
- 日本における社会的包摂
- 日本と韓国の公共放送局の報道の比較研究



あかし じゅんいち
明石 純一

「国境を越える政治」▶
【移民・難民研究／アジア地域の国際人口移動の分析／グローバルガバナンス】▶人（あるいは

は労働力）・物（商品）・金（資本）、そして情報があたかも自由に国の境界線を越えているかにみえる現代社会を、「ボーダーレス」と形容することが増えました。グローバル化により世界は「ひとつ」になる、ということも頻繁に語られます。しかしそれはどこまでが本当のことなのでしょう。そもそも「国家」、「国境」、「国籍」、「国民」とは、いかなる実体を表す概念なのでしょう。世界各国を放浪していた大学時代にふと頭に浮かんだこの疑問に取りつかれ、今もまだ回答を探している最中です。政治学を含む社会諸科学の習得と行動による実体験を通じて現代社会の変化と普遍性を理解すること、そのような学びの場をみなさんと共有したいと考えています。



こんどう やすし
近藤 康史

「政治思想」「政治過程論」「現代政治分析」▶
【政治理論・思想／福祉国家論／イギリスを中心とした現代ヨーロッパ

政治】▶政治学を志す理由の一つに「社会を良くしたい」というものがあるでしょう。しかし、自分にとって「良い社会」が他人にとっても「良い」とは限りません。社会には様々な考え・価値を持つ人々が存在するからです。その多様性を踏まえながら、いかに平和的な共存の方法を見出すか、これこそが政治学の根本的な問いです。その問いへ向けて、まずはできるだけ多様な人々との付き合いやコミュニケーションを通じて様々な考えや価値に触れてみましょう。それが政治学への第一歩です。



すずき そう
鈴木 創

「比較政治学」「アメリカの政治」▶【現代アメリカ政治／議会研究】▶新聞やテレビで政治が語られない日はあり

ません。政治についての知識やイメージを得ることはそう難しいことではないでしょう。でも、常識とされていることが本当に正しいのか、常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。



たけなか よしひこ
竹中 佳彦

「日本政治論」「日本政治思想」「現代政治外交Ⅰ・Ⅱ」▶政治学・日本政治論（イデオロギーと政治意識、投票行動などの計量分析／戦後の政治外交史・思想史）

▶政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培ってください。



ちえ じえよん
崔 宰栄

「計量分析入門」▶【計量政治学】▶社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持つ

て積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけてみませんか。



つじなか ゆたか
辻中 豊

「政治学」▶【各国の市民社会と政治／NGO・NPO・利益集団／政治過程の比較分析】▶政治は面白い…と15歳で

感じてから、40年余、私は今も楽しく研究しています。中味はいずれ講義で聞いてください。政治は運命への自己決定という側面もあり、どうしても大きく大きな歴史の流れという側面もあるので、多様な接近が必要です。歴史の奔流に流されず、メディアやエリートに操られず、自分が主人公になること、そのために政治学がありますが、さてその肝心の自分とは何でしょう。それを知ることから研究が始まります。そのためには自分「研究ノート」をつけましょう。



みなみやま あつし
南山 淳

「国際政治学」「国際紛争論」▶【国際政治理論／国際安全保障／グローバル化と国際紛争】▶「1

人を殺せば犯罪者となり、数百万人を殺せば英雄となる、数が殺人を神聖なものにするのです…」映画『殺人狂時代』（1947）の中でチャップリン演じる連続殺人犯が発したセリフです。倫理的判断はどうあれ、他者の生命を理不尽に奪うという意味で、殺人と戦争の分岐を犠牲者の数に求めることは一面の真理かもしれません。ただ誤解してはならないのは、大量殺戮の結果、殺人が正当化されるわけではなく、「正当」とされる目的が戦闘行為における殺害を正当化するという点です。戦争の目的が正しいか否かの判断は、人によって、国によって、時代によって変わってきます。「正しい戦争」は本当にあるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



ふるた ひろし
古田 博司

「東洋政治思想」「情報戦略と政治」▶【東アジア政治／北朝鮮・韓国政治／東洋思想史／朝鮮史】▶近代を支えてい

た様々な擬制が壊れ、こちら側だけでは普遍を指向できない時代が訪れています。従来の学問の通説がいつの間にか現実妥当性を失って肩がご送りになる、そんなことはもう日常茶飯事です。ニーチェは19世紀の人ですが、『権力への意志』のなかで、すでにメタ物語を破壊し、その先のものまで斬りつけています。いわく、「現象に立ちどまって『あるのはただ事実のみ』と主張する実証主義に対して、私は言うであろう、否、まさしく事実なるものはなく、あるのはただ解釈のみと」。でも人間は世界の解釈をしなければ世界に住んでいられません。世界を何々圏という圏に分けて認識したり、検索エンジンのように全ての項目をあげてそれを類型化したりする、新しい学問の方法も模索されています。私の講義は、いま謙虚にこの時代に向かい合い、真摯に格闘することから始められます。参考書は、古田博司『ヨーロッパ思想を読み解く-何が近代科学を生んだか』（ちくま文庫）を挙げておきましょう。



まつおか ひろし
松岡 完

「政治外交史」「アメリカ外交史」▶【アメリカ政治外交史／冷戦史／ベトナム戦争史】▶受験勉強中のみなさんは、

世界史や日本史は「暗記科目」で、つまらないと思っているのでは？でも本当は、歴史とは推理小説のようなもの。世の中に発生した無数の出来事の中から、それぞれの目で「事実」を選び出し、独自の「解釈」を加えることで、何が起きたのか、なぜそうなったのかという「物語」をつくりあげていく作業です。20世紀、とくにその後半の政治外交史を舞台に、その面白さを一緒に味わっていきませんか。

経済学主専攻

経済学への招待

経済学は、社会科学で唯一ノーベル賞の対象となっている学問分野です。経済学の方法は、狭い意味の経済現象の分析用具として大きな成果をあげてきただけでなく、政治、法律、労使関係、家族、環境問題、都市、教育、国際関係といった他の分野にも幅広く適応されてきました。その結果、今日では、それらの分野も経済学の重要な領域となっています。

経済学は他の人文社会科学と同様に歴史や思想を重視します。また自然科学と同様に、明確な仮定を設定し、それを客観的データを用いるなどして論理的に明らかにしていきます。

経済学は、しばしば誤解されるような、金儲けや社会の効率化の手段ではありません。それは、現代の社会問題を客観的に、そして検証可能な形で思考するために必要不可欠な手段です。

教育方針と特色

経済学主専攻では、経済学の基礎的な分析手法を段階的に学ぶことができるカリキュラムを設定しています。これに加え、理論や政策から歴史および現状分析に至る教育内容を設定することで、広い社会的関心をもちながら、現代の問題を体系的にとらえる能力の養成を目的としています。

また、他大学の経済学部と比べて教員一人当たりの学生数が少ないという特色を生かして演習（ゼミ活動）を重視しています。

そこでは、活発な議論を通じて経済学をより深く学べるよう留意するとともに、キャンパスを飛び出して工場見学を実施したり、日本銀行や証券取引所見学を実施するなど生きた経済を学ぶための実習的な取り組みも積極的に行っています。

さらに必修ではありませんが、学生生活の総決算として卒業論文をまとめることを推奨しています。

将来の方向と進路

就職先は、銀行など金融業から、製造業、マスコミ（新聞記者など）、教職、公務員などさまざまな分野に及んでいます。また、研究者をめざして大学院に進学する人もいます。



工場見学（クリーンルームにて）



演習風景



講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成25～26年度）

- 労働環境と人々の行動 ●メディアコンテンツに対する経済分析 ●リーマン・ショックをめぐって ●日本経済における中小企業
- 行動ゲーム理論の研究 ●一般者参加型ゲーム理論実験の企画遂行法とデータ収集法に関する研究
- Corporate Culture and Bargaining Game Theory with The Social Image ●保育園の経済学
- 日本の農業に TPP が与える影響について ●乃木坂46がトップアイドルグループになるための条件



しのつか ともいち
篠塚 友一

「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「産業組織論」▶【ミクロ経済学／社会的選択理論／厚生経済学】▶

某大学の経済学部を受験すべきか商学部を受験すべきか迷っていたとき、当時その大学の商学部3年生であった方から、経済学部受験を勧められました。その方がおっしゃっておられたように、経済学は面白く、かつ有用な学問です。このことを深く理解するためには、最初の2年間は数学（線型代数、微積分）や論理学をじっくり学ぶとよいでしょう。



たかはし ひでなお
高橋 秀直

「現代経済史」「経済学入門演習II」▶【経済史／金融史】▶知識は断片的な情報を相互に関連

付けて整理したものです。高校までの勉強は、他の誰かが整理した教科書や受験参考書を利用するだけでした。でも、私は、他人の視点を身につけることから一歩踏み出して、自分なりのものの見方を手にしたいと思っています。新しいことを学ぶ度に、自分がすでに知っている知識と関連付ける練習を続けています。授業を通じてその一端を伝えられれば幸いです。



なか しげと
仲 重人

「公共経済学」▶【公共選択論／公共経済学】▶人は、自分が社会関係を通じて形成した眼鏡を

とおしてこの世界を見ています。眼鏡の良し悪しについては絶対的な基準はないかもしれませんが、少なくとも、経済学的手法は、一つの代替的な、かつ、とても興味深い眼鏡を提供してくれると思います。私の場合はそうでした。これは、自分と社会を認識している自分の視座を変革し、異なるレベルの満足と理解を得るために役に立つかもしれません。



ひらさわ てるお
平沢 照雄

「地域経済論」「日本経済史」「日本経済論」「経済学演習V」▶【現代日本経済史／地域経済・

産業論／中小企業論】▶グローバル化が進む中で、今日の日本経済・地域経済は大きな転換期にあります。日本経済は、どのような歴史を経て現在に至り、今後どのような方向に向かおうとしているのかに興味をもち、日本経済・地域経済の歴史と現状について学びたいという意欲的な学生に出会えることを期待しています。



ひらやま あさじ
平山 朝治

「経済思想史」「経済学演習VI」▶【経済思想／経済システム・文化・思想の進化と持続／日

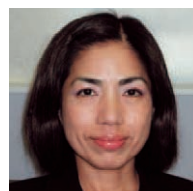
本社会】▶大学生になると、あらゆる面で、それまでと比べて自由に自分でものごとを決められるようになりますし、大学を卒業すると、これほどの自由や時間的余裕は二度と得られない人が多いでしょう。入学目的の受験勉強が終わった後、自由を持てあましたり、自由に背を向けること（カルトにはまるなど）にならないように、何ができるか、何をしたいかを予め考えて、夢を持って志望していただきたいと思います。



ふくずみ まさかず
福住 多一

「経済数学」「基礎経済数学」▶【ゲーム理論／進化ゲーム理論】▶経済学は

科学です。その体系の理論的本質の多くは、数学で記述します。これを理解するには、冷徹な論理的思考力が必要です。ただし科学的に解明する対象は、社会現象とそれを構成するヒトです。これを理解するには、社会やヒトに向けた温かい眼差しと豊かな心が必要です。このように、経済学は理系・文系の境界が無い新しい総合科学です。この若い科学を意欲的な皆さんと成長させたいと思っています。



みのわ まり
箕輪 真理

「開発経済学」「経済学演習X」▶【開発経済学／ラテンアメリカの経済／

開発政策／社会開発】▶世界は大きくて私たちの知らないことは無限です。そんな世界に生まれてきた私たちは本当に幸せ。限られた時間をどう過ごすし、何を考えて、いかに生きるのか、自分の選択次第です。自分の選択に責任を持って、たくましく生きてゆけるための基礎固めをする時間、それが大学での4年間です。社会学類に入学して、勉強は本当に楽しいということを実感してもらえたら願っています。

4主専攻から

社会学主専攻 ● 目黒 茜

「自分を自分たらしめるものは何か」誰でも一度は持つ問いだろう。

私は中学を卒業してから、自分が「変わっている」と思われる経験がいくつかあった。私は高校に進学せず、高等専門学校（通称：高専）への進学を選択した。数多くある高校と比較すると、高専は非常に少なく、その存在を知らない人も多い。また、16歳のころ高専を1年休学し、アメリカの高校に通った。アメリカでの「日本人という自分」と、帰国後の「アメリカ帰りの日本人」という自分」と、2つの社会での「変わっている」経験をした。そして2011年の東日本大震災を経た今、「フクシマ」が私を付きまとうようになった。生まれ育った地が、これまで私を規定するものになるとは思っていなかった。

しかし、このような私の選択や経験は、私の中では全く「変わっている」ものではないのだ。私が「変わっている」とされるのは、「他者」や「社会」の存在があるからである。自分を自分たらしめるものは何か。それは自己であり、他者であり、社会である。しかし、他者や社会が定義する「変わっている」私は、私の一側面にすぎない。

重要なのはその自己・他者・社会の関係を理解し、「常識」を疑うことにある。私たちがみている世界は、その世界の一側面に過ぎない。言い換えれば、私たちの生きる世界には知らないことと見落とされていることがたくさんあるということだ。

社会学主専攻では、社会の様々な分野を専門とする先生方から知見を学ぶだけでなく、ゼミなどで先生や学生たちと議論し、問題意識をさらに深められる場が用意されている。「常識」を手放す知的探索とともに深めていく仲間を、社会学主専攻でお待ちしています。



法学主専攻 ● 森 春樹

「筑波大で法律やっている学類ってあるんだね」と他学類の方からしばしば驚かれます。たしかに法律を専門的に勉強すると聞いてイメージするのは大人数を抱える法学部でしょう。大きな法学部の方が、授業が充実しており良いのではないと思う方もいるでしょう。ではなぜ、大きな法学部ではなく社会学類で法律を学ぶのでしょうか。

それは社会学類に他大学にはない強みがあるからです。社会学類の強みを私は教員とのつながりやすさだと考えています。法学主専攻では30人前後の授業がほとんどのため教員に質問等をできる機会が多く、自分から働きかければ複数の教員から大きなリターンを得られます。

私の経験をお話します。以前、米国カリフォルニア州にあるUC Berkeleyのロースクールを訪問してプレゼンテーションをするという社会学類の企画に参加しました。私は刑事訴訟法に関する発表をしたのですが、準備をする上で、憲法担当の先生だけでなく、所属ゼミの刑事訴訟法や民法の先生方など多くの先生方に、内容のみならず英語や発表方法などもサポートしていただきました。他大でこれほど多くの先生方が一学生のプレゼンのために協力することはそうそうありません。私は入学以来、授業中・授業後先生方とできるだけ関わり、多くを吸収しようと行動しており、その成果であると考えます。

社会学類は人数の少なさゆえに学生間の競争が弱い等、短所もありますが、それを上回る利益が社会学類にはあります。受験生の皆さん、少人数の利点を最大限活用して社会学類で法律を学ぶ4年間というのはいかがでしょうか。



充実した新歓企画 内野 紗也香

社会学類では新入生歓迎企画として、入学式前から様々なイベントを行います。これらは自由参加ですが、早いうちから先輩や同期さらには先生方との親交を深められ、大学生活を順調に進められます。

また他学類より回数が多いため、学類内の縦と横のつながりが強くなるのも、社会学類が自慢できる特徴の一つです！



学類が自慢できる特徴の一つです！

さらに授業や一人暮らしに役立つ冊子＝新歓パンフを作成し、春休みに配布します。私はこのパンフを読んで、時間割について考えたり、一人暮らしに必要なものを揃えたり、サークルや大学近辺の情報を得て、大学生活に備えることができました。

知らない土地で始める大学生活。初めて親元を離れ一人暮らしを始める方も多いでしょう。新入生の不安を少しでも軽減することができるよう、新歓委員一同全力でサポートさせていただきます。皆さんと一緒に社会学類で有意義なキャンパスライフを送れる日を楽しみにしています！

学園祭への企画参加 伊藤 郁弥

筑波大学で秋に開催される「雙峰祭」は、約500の団体・企画が出展し、学内外から3万人もの来場がある関東屈指の学園祭です。私が所属する社会学類経済学主専攻のゼミでは、日頃の研究内容を多くの人に知ってもらうことを目的に、ゲーム論を用いた性格診断アクションブースを企画しました。



初めての試みだったので、企画の進行には苦労しましたが、ふだんとは違った雰囲気の中で研究発表ができ、楽しくかつ貴重な経験となりました。なかでも、私が担当したオークション実験のブースでは、白熱した「せり」が展開されました。実際の価格よりも高値で商品を落札してしまう「勝者の災い」が多く起こり、理論の正しさを肌で感じることで、わくわくしました。

こうしたゼミ以外にも、様々な団体が学園祭に積極的に参加しています。皆さんも社会学類で楽しく学び、学園祭で一緒に盛り上がりましょう！

政治学専攻 ● 山田 真也

政治学とは、「政治」について研究する学問です。それでは、政治とは一体何のことを言うのでしょうか？みなさんの中には、政治は政治家の行う活動であって、日常生活と縁のないものであると考えている人も多いかもしれません。政治とは、自分に都合のいいように物事を誘導する駆け引きであると思っている人もいないのでしょうか。

そうした見方も政治の1つの側面です。しかし、政治は私たちのもっと身近なところにも存在しています。広辞苑では政治を「人間集団における秩序の形成と解体をめぐる、人が他者に対して、また他者と共に行う営み。」としています。人間が複数人で集団を作れば、そこに政治が存在するのです。そして、集団の中で、個々人がより満足できるような決定を下すためにはどうすればいいかを考えるのが、政治学の目的なのです。

政治学の面白いところは、正しい答えが無いところだと思います。人によって価値観が異なるために、人によって望ましい決定のあり方が変わってくるからです。たとえば、恵まれない人にとっては、平等に財産を分け合う社会が理想かもしれませんが、能力のある人にとっては自由に競争を行える社会が望ましいと思うかもしれません。より良い政治を目指すことは、正しい状態を目指すのではなく、全員が納得している状態を目指すことだといえるでしょう。

私は政治学を学ぶうえで、いろいろな価値観について知り、視野を広げることが大事だと思います。大学では、様々な考え方を持った人と触れ合うことができる場です。皆さんも社会学類で視野を広げ、人間としての幅を広げてみませんか？



経済学専攻 ● 小野瀬 香織

近年ずっと魅力度ランキング最下位の茨城県。小中高を茨城で育ってきた私は、「なんとかして茨城を元気にしたい!」と思ってきました。それが、社会学類の経済専攻に進んだ理由です。

みなさんのなかには「数字や数学が苦手」という漠然とした理由から、経済を学ぶことをためらっている人はいませんか？もちろん、たくさんのデータが提供される現代社会では、統計数字から現状を分析することは大切です。でも、例えば地方の活性化を考えようとする場合、世界経済や日本経済の歴史をたどりながら、社会の大きな流れをしっかりと学び、それをふまえて地域固有の経済について分析することは、とても大切です。またそうしたことから得られる情報が大きい役に立ったりします。

私は、今、公共経済と、企業経営・地域経済の2つのゼミに所属し、公と私の両面から経済学を楽しく学んでいます。例えば「地方には仕事がなく人手が余っている時代」から、「地方の人手不足が深刻化する時代」に変化しつつある現実を学び、地域経済の将来について議論しています。

そのように授業で新しいことを学びつつ、実際に地方に目を向けたり、新聞を読んだりすると、今までとは違う新しい視点で社会を見ることがができます。それが経済学を学ぶ面白さです。

経済専攻の授業は、経済ゲームや実験を行ったり、工場見学をして貴重なお話を伺ったり…と様々な工夫や魅力があります。また少人数で行われるゼミは先生方との距離が近く、気軽に質問にも応じてくださるので理解も深まります。さらに専攻の友達と議論するなかで交流もいっそう深まります。

みなさんぜひ一緒に、社会学類で経済を楽しく学びませんか！



海外留学の勧め 重本 啓太郎

私は、現在、2年間のイギリス、シンガポールでの留学を終え、社会学類で学んでいます。私が海外留学をしたと思ったのは、グローバル人材の育成を重視する筑波大学に入学し、世界経済や開発経済学に興味をもったことと、イギリスの大学院にいる兄の影響からです。兄の話を聞き、私も海外生活を経験し、グローバルな視点から経済を学びたいと思い、留学を決めました。

留学は他の文化圏の多様な考え方を知るのにとってもいい方法です。日本から離れた場所、別の見方をすることで、新たな方向が見いだせる可能性も拡大します。

最近は私が海外に行った時に比べ、留学支援制度、英語での授業など、大学からのサポートがとても充実しているので、ぜひそれらも活用することをお勧めします。

あなたも社会学類に入学し、海外留学にも挑戦し、自分の可能性を拡げてみませんか？そして、グローバルな視点に立って、自分自身のやりたいことを実現させてください！



編入学生 岩井 優海

もしあなたが進路に迷い、別の大学で新たな勉強をしたいと思ったらどうしますか？筑波大学の社会学類には、他大学で取得した単位が認められて3年次に編入できる編入学という制度が設けられています。

私は、前の大学では経営学を学んでいましたが、もっと幅広く学際的に社会のことを学び、自分なりの意見を持てるようになりたいと考え、筑波大学社会学類への編入を希望しました。幸いにも編入試験に合格することができ、今年の4月から他の学生とともに楽しく学んでいます。

実際に授業を受けていると、学問間の垣根を超えた繋がりが頭のなかに浮かんできます。新しいことを色々勉強すればするほど手持ちの札が増え、現状に対してアプローチできる方法がどんどん増えていく感覚を味わっています。それが面白くて、もっと勉強したくなります。皆さんも社会学類で視野を広げてみませんか？

社会学主専攻卒

川崎 大誠

人事院



日本社会において「働く」とはどのようなことであるのだろうか—そう思ったのが、社会学類社会学専攻への編入学を決めたきっかけでした。「働く」ことを研究対象とする学問はたくさんあるかと思いますが、自分の疑問にフィットする—「働く」ことの〈あたりまえ〉を疑う—研究ができるのは、社会学であると考えました。

社会学の魅力の一つであると思うのは、問いの立て方やその問いに対するアプローチが多様であることです。私は卒業論文において、「ニート」問題について考えました。私は「なぜ00年代になって『ニート』が問題視されたのか」という問いを立て、それに対

してメディア分析という手法を用いました。問いの立て方によっては、「ニート」と呼ばれる人々にインタビューをするとか、就労支援施設の参与観察をするとか・・・様々であると思います。

もう一つ社会学の魅力をあげるとするならば、あらゆる事象を研究対象にすることができるということです。過去の卒業研究の題目を見てみても、研究内容の多様さに驚くはずです。私自身も過去の題目を見て、まったく違うテーマに移りすることがありました。これを読んでいる皆さんも自分が好きなこと、あるいは自分が疑問をもっていることを研究対象とすることをおすすめします。自分が興味を持っていることを研究対象とすると、きっと楽しく研究ができるでしょう。

現在は、人事院という国の機関で働いています。そこでも、自分が社会学の門扉を開いた問いである「働く」とはどのようなことであるのかということを常に考えるようにしています。また、「あたりまえ」を疑うことも欠かせません（たまた「斜に構えている」というレッテルを貼られることもあります・・・（笑））。

最後になりますが、社会学は楽しい学問です。ぜひ、社会学の世界に飛び込んでください。きっと毎日が充実した日々となることでしょう。

卒業生の声

政治学主専攻卒

別府 健太郎

福岡放送 (TV局)



「政治」と聞いて、皆さんは何をイメージするでしょうか？

テレビや新聞では首相や大臣があんなことを言った、国会でこんな決定があった、選挙で〇〇党が勝ちそう、などと何だか難しい話が多いです。これらを家族や友人に解説できるようになっただけでは政治を学んだことにはなりません。多くの人で構成される社会で、どうすれば皆が充実した幸せに暮らせるかを追究するのが政治学です。

世の中にはいろいろな人がいます。消費税が2～3%上がったところで痛くも痒くもない人もいれば、生活がさらに苦しくなる人もいます。水不足解消のためにダムを造れと言う人がいれば、自然を守るために造らせないという人もいます。

これらに「全ての人が満足する」解決策はおそらくありません。しかし、どうすればより多くの人に利益があるのか、もしくは損を小さくできるかを決めるのが政治です。いま盛んに語られる憲法も、原発も、基地問題も、すべての人が100%納得する答えなどありません。しかし最善の答えを探し続けるのが政治の役目であり、政治を学ぶ私たちに求められることです。

2・3年生から所属するゼミでは先生や仲間とさまざまなテーマについて話しますが、「自分の意見を述べる」ことは単純なようで実は非常に難しいことです。解を出すのが難しい政治のテーマについて説得力のある話をするとなればなおさらですが、毎週のようにこれを経験できる場所はあまりありません。私は毎日のニュース取材で多くの人に話を聞きますが、大学時代に政治を学び多くの人と議論した経験は強く生きていると感じます。

皆さんが政治学専攻で実りある4年間を過ごされることを祈っています。

法学主専攻卒

堀田 英輔



裁判所事務官
(水戸地方裁判所下妻支部)

皆さんは「法律」と聞いてどんなイメージが浮かぶでしょうか？堅そう、難しそう、そんな印象を持っている方も少なくないと思います。かつては私もその一人でした。

私は入学当初、公務員になりたいという思いから、社会学や政治学を専攻しようと考えていました。当時の私は、法律は暗記科目だという先入観を持っていました。しかし、1年次に履修した刑法の講義で、パズルのような理論や扱う範囲の広さに興味を抱き、法律の奥深さに惹き込まれました。そして、司法制度や刑事事件への関心も相まって、特に刑事法の分野をより深く学びたいと思い、法学主専攻を志すようになりました。

法学主専攻に進んでからは、刑法や憲法、訴訟法、裁判実務のゼミを中心

に、法律の解釈論や実務上の法律の運用について深く探求しました。法学主専攻のゼミは多くが少人数で行われており、先生方のきめ細やかなご指導の下、アットホームな雰囲気の中で議論をすることが出来ます。私はゼミでの議論や模擬裁判などを通じ、司法制度を多方面から検討する中で、裁判所を支えるという立場から法律実務に携わりたいと考えるようになりました。そして現在では、裁判所職員として法律実務の最前線で働いています。

法律を学ぶ中で習得した多角的な視点やバランス感覚、そしてゼミやサークル、学類での生活を通じて築いた価値観は、迅速性や公正公平さが要求される裁判所での職務において、大きな力になっていると実感しています。忙しくも充実した裁判所職員としての日々は、法学主専攻で学んだ時間の賜物といっても過言ではありません。

法律を学ぶことで得られる知識や思考方法は、公務員や法曹のみならず、民間企業への就職や大学院への進学など、多くの分野で活用できます。また、法学は明快な論理性や幅広い研究分野があり、学ぶほどに知的好奇心が高まる、奥の深い学問でもあります。学び進める中で、必ず一つは興味の持てる分野に出会えるはずです。そして法学主専攻には、少人数教育や特色あるカリキュラムの下、周囲と共に高め合いながら法律を学べる、素晴らしい環境があります。皆さんも、法学主専攻で法律を学んでみませんか？

社会学類の先輩達は当時どんなことを考え、どんな学生生活を送っていたのか？ 今は卒業し就職した先輩達に聞いてみました。

経済学主専攻卒

高梨 奈緒子



横浜銀行

「実際に学んでみなければ、自分の専攻を決めるなんてできるわけがない」。こんな思いから、私は社会学類を志望しました。その言葉通り1、2年次は専攻をしばらくは、社会学、政治学、法学、経済学を広く学びました。そうして最終的には経済学を選びましたが、ほかの分野にふれそれぞれの基本的な考え方を知ることができたことは、私にとって社会学類で学んだからこそ得られた貴重な財産です。

経済学主専攻で、私は3、4年次には、ゲーム論、公共経済学や日本経済論のゼミに属していました。人間とか社会とか抽象的ではっきりしないものが、統計データや数字を当てはめられたことで線を描くようになる、パターンのあることがわかるようになる、という点をとてもおもしろく感じ

ました。経済学はお金のことばかり考える学問だと思われがちですが、私は「人間や社会について数字を使って表現する学問」だと思っています。

でもこんなことを言うと、「どれだけ高度な数学を使うのか？」と思われそうですが、経済学主専攻の授業の多くでは数学は基本的な部分を理解していれば大丈夫です。数学をほとんど使わない授業もあります。必要なことは先生方が丁寧に教えてくださいますから、安心してください。

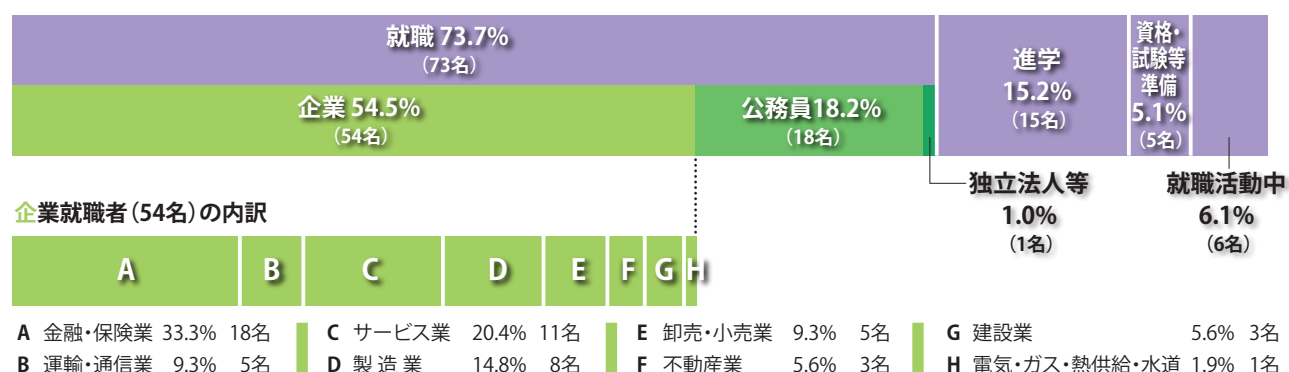
先生方と学生の距離が近く、アットホームな雰囲気のあることが社会学類の一番の魅力です。特に経済学主専攻には人柄・専門分野ともに個性豊かな先生方がいらっしゃいますから、みなさんの学生生活もより実り多いものとなることでしょう。

社会に出てから、数字の動きと人の動きを関連付けて考える姿勢は、どんな仕事をしていても必要となります。イメージにとらわれるのではなく、自分の目で見て考える力を身に付けたい人に、私は社会学類、特に経済学主専攻をおすすめします。

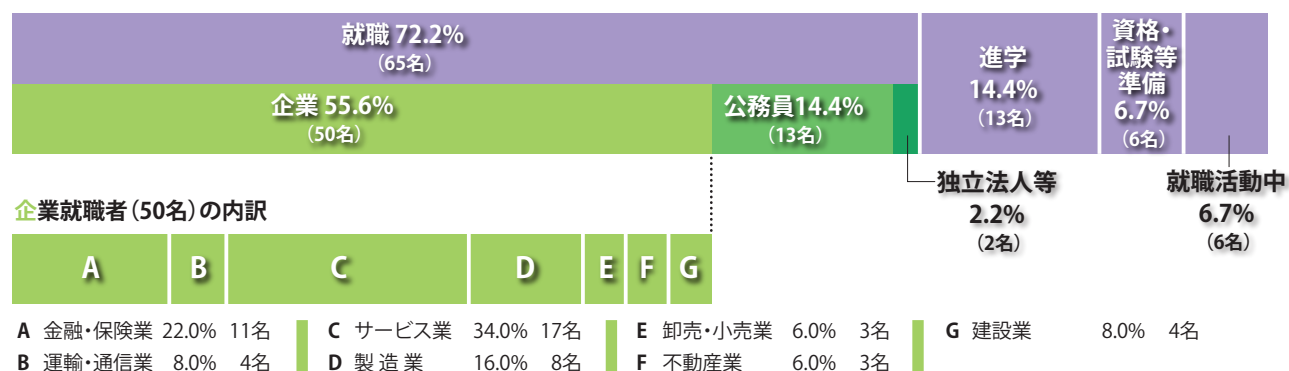
卒業生の進路

最近の傾向でみると、就職する者が約7割に達し、その就職先は多岐にわたります。特に金融・メディア・情報通信、サービスならびに製造業分野に強く、多くの人材を輩出してきました。また公務員の道を選ぶ者も多く、全体の約2割をしめます。一方、大学院進学や司法試験・公認会計士などの資格試験の準備をする者も、同様に約2割をしめており、将来、研究職や高度な専門職につく卒業生も少なくありません。

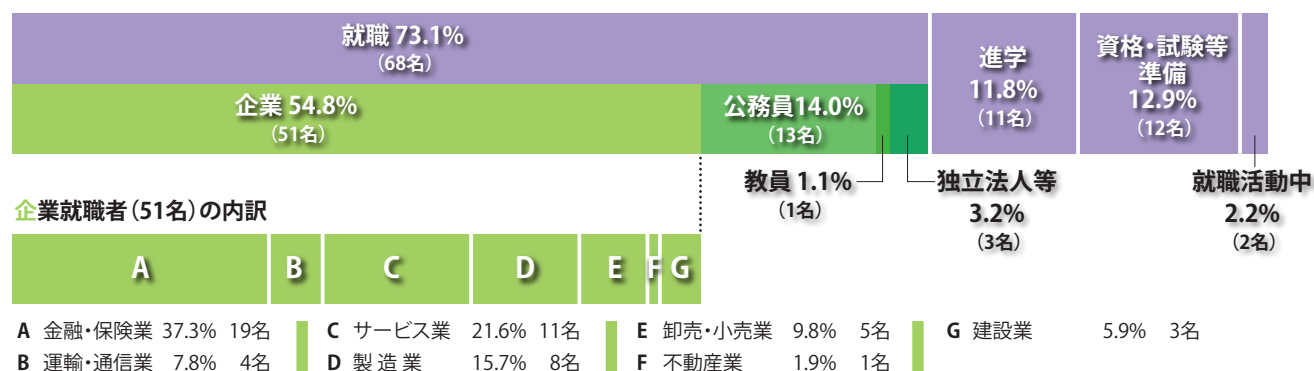
平成26年度【卒業生 99名】



平成25年度【卒業生 90名】



平成24年度【卒業生 93名】



最近5年間の主な就職・進学先（平成22～26年度）

銀行・信託業

三菱東京UFJ銀行
三井住友銀行
みずほ銀行
日本政策金融公庫
ゆうちょ銀行
りそな銀行
常陽銀行
千葉銀行
横浜銀行
静岡銀行
群馬銀行
山口銀行
ジャパンネット銀行
三菱UFJ信託銀行
三井住友信託銀行
三井住友VISAカード
ジェシービー
オリックス

保険・証券業

第一生命保険
日本生命保険
住友生命保険
明治安田生命保険
かんぽ生命
アクサ生命
損害保険ジャパン日本興亜
野村證券
大和證券

新聞・放送業

朝日新聞
読売新聞
中日新聞
西日本新聞
信濃毎日新聞
NHK
テレビ朝日
関西テレビ
福岡放送
新潟テレビ

調査・コンサルティング・ 広告代理店

野村総合研究所
電通
船井総合研究所

情報・通信業

NTT東日本
ソフトバンク
日立ソリューションズ
富士通エフ・アイ・ピー
第一生命情報システム
東映
NTTデータフロンティア

製造・電力業

新日鐵住金
東芝
三菱電機
ヤマハ
大日本印刷
日本ガイシ
リンナイ
P&G
日本ハム
プリマハム
味の素冷凍食品
デサント
グンゼ
昭和シェル石油
古河機械金属
東北電力
九州電力

住宅・建設業

大林組
鹿島建設
トヨタホーム
住友林業
三井ホーム
積水ハウス
大和ハウス工業
日比谷総合設備

運輸・同サービス業

日本郵船
JR東日本
日本郵政
JTB
阪急交通
ケイラインジャパン

卸売・小売業

丸紅
楽天
三菱商事パッケージング
三菱商事マシナリ
豊田通商
日鐵商事
双日
丸善
ローソン
ニトリ

不動産取引業

東急不動産
三井不動産リアルティ
コスモスイニシア
ホンダ開発

宿泊・生活関連サービス・ 娯楽業

星野リゾート
キョードー東北

国家公務員

総務省
厚生労働省
人事院
東京地裁
東京家裁
札幌東労働基準監督署
さいたま地裁
東京高裁管轄裁判所
国立国会図書館

地方公務員

●都道府県庁

東京／茨城／埼玉／静岡／
栃木／岐阜／岡山など

●市役所

名古屋／横浜／さいたま／
つくば／熊谷／春日部／
堺など

●警察署

茨城／埼玉／千葉など

教育研究機関・ 独立行政法人

千葉大学
宇都宮大学
高エネルギー加速器研究機構
海洋研究開発機構
鉄道建設・
運輸施設整備支援機構
日本司法支援センター

業界団体等

日本自動車連盟

進学（大学院）

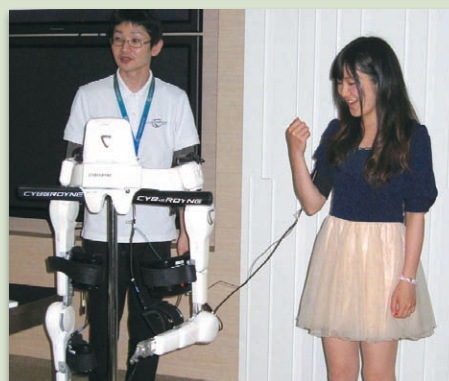
筑波大学
東京大学
東北大学
一橋大学
慶應義塾大学



宿舎に入居している学生を中心として、毎年5月末に開催される宿舎祭。参加の充実感120%。



新入生がキャンパスを飛び出して、アメリカンセンターJapanを訪問した時のものです。



フレッシュマン・セミナーで、サイバードインスタジオに出かけ、世界初のサイボーグ型ロボット「ロボットスーツHAL.A.N.」を体験した時のひとコマです。

「社学生」の

生活

Campus Life

主に社会学類生で構成されるサークルの桐政会では、社会・政治問題を熱く議論します。



学園祭、社会学類開催イベントの目玉！松美記念です！松美池に飛び込む経験は、なかなかできませんよ、ぜひ挑戦してみてください。



11月に行われる学園祭「雙峰祭」の様子です。一般のお客さんとサークルや学類の屋台で賑わっています。毎年大変盛り上がる筑波大学最大のイベントです。

中央図書館です。図書館内にはテイクアウト可能な喫茶店もあります。試験期間前になると多くの人が課題に追われて図書館を利用します。

「STUDENT PLAZA」

ここには「就職課」などがあり、就職活動に関する様々な資料が詰まっています。



入学案内

入学定員 1 学年 80 名（国費留学生は別枠）／編入 10 名

1	推薦入試	募集人員 16 名 試験時期 11 月下旬 試験科目 小論文および面接
2	一般入試	募集人員 前期 64 名 試験時期 大学入試センター試験…… 1 月中旬 個別学力検査… 前期 2 月下旬 ▽ 個別学力検査の試験科目 前期 ●外国語 (英 [英 II・リーディング・ライティング]、独、仏、中の中から 1 科目を事前選択) ●数学 (数 II・数 B)、国語 (現代文・古典)、 地理歴史 (世界史 B、日本史 B から 1 科目を選択) の中から 1 教科を事前選択
3	私費外国人 留学生入試	募集人員 若干名 試験時期 2 月下旬 試験科目 小論文および面接
4	帰国生徒 特別入試 (10 月入学)	募集人員 若干名 試験時期 7 月 試験科目 小論文および面接
5	編入学試験	募集人員 10 名 試験科目 2 月下旬 試験科目 各主専攻分野の専門科目、外国語および面接
問い合わせ先		筑波大学 教育推進部 入試課 Tel. 029-853-6007 なお、募集要項の発表は、毎年 9 月下旬です。 ※詳細は以下の URL まで http://www.tsukuba.ac.jp/general/index.html http://www.tsukuba.ac.jp/admission/index.html



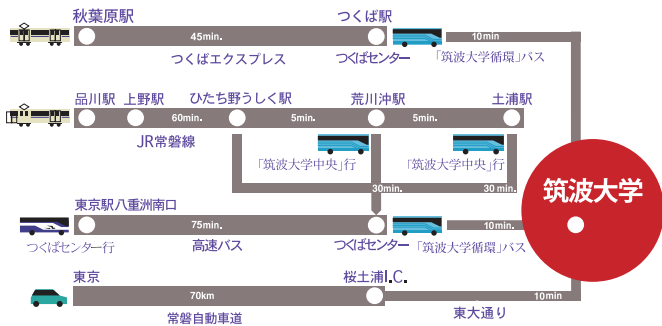
筑波大学社会学類案内誌

社会学類への招待

2015 年 7 月 10 日 初版一刷発行 禁無断転載

編集委員	学類長：根本 信義 社会学類広報委員：平沢 照雄〈委員長〉、樽川 典子、守田 智保子、崔 宰栄
企画・編集	社会学類広報委員会
デザイン	松澤 康行
写真	小沼 渉
発行	筑波大学社会・国際学群社会学類 〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1 http://shakai.tsukuba.ac.jp/
印刷・製本	株式会社いなもと印刷

社会学類への招待



■ 筑波大学へのアクセス | Access

◎つくばエクスプレス

- 「秋葉原駅」から「つくば駅」まで最速45分
「つくばセンター」から「筑波大学中央」行きバス(10分)または
「筑波大学循環(右回り)(左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

◎高速バス

- 「東京駅八重洲南口」から「筑波大学」行きバス(約75分)
- 「東京駅八重洲南口」から「つくばセンター」行きバス(約65分)
「つくばセンター」から「筑波大学中央」行きバス(10分)または
「筑波大学循環(右回り(左回り))」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

◎JR常磐線

- 「ひたち野うしく駅」東口バスターミナルから
「筑波大学中央」行きバス(40-50分)「第一エリア前」下車
- 「荒川沖駅」西口バスターミナルから
「筑波大学中央」行きバス(30-40分)「第一エリア前」下車
- 「土浦駅」西口バスターミナルから
「筑波大学中央」行きバス(35-40分)「第一エリア前」下車